

図書館だより

目次

濫読の勧め	——白杵 陽	1
日本女子大学叢書の紹介		
田中有美著『生きてゆくドン・キホーテ ——日米現代小説における非ロマン主義的受容』	——田中 有美	2
図書紹介 高野晴代監修『広岡浅子「草詠」』	——高野 晴代	3
ウィリアム・モリスの散文ロマンスとケルムスコット プレス刊本	——川端 康雄	4
著作紹介 白杵陽著『「中東」の世界史』		
——西洋の衝撃から紛争・テロの時代まで——	白杵 陽	6
JWU ラーニング・コモンズ名称決定!	——中澤 恵子	7
2018 (平成30) 年度上代タノ平和文庫購入資料紹介		7
令和元年度夏期スクーリング開館について		
	——南木 香織	8
図書館・学生滞在スペース落成式催行される		8



図書館(目白) 入口ゲート

濫読の勧め

白杵 陽

今年も「読書の秋」が訪れました。新しい図書館が完成して半年が経過し、皆さん方も新しい施設を十二分に活用していることと思います。新図書館は全面ガラス張りで見やすくなりました。ご利用に当たって気づかれた点があれば、どんな些細なことでもご意見をいただければ幸いです。

ところで、皆さん方には濫読(乱読)の時期があったでしょうか。そもそも、濫読という言葉ももう死語になってしまったのかもしれませんが。何の方針も立てず、手当たり次第に書物などを読むこと、と辞典では定義されています。戦前の旧制高校の学生が濫読をしていたという話をよく耳にします。旧制高校は現在の高校と大学の前期に当たり、皆さん方と同世代ということになります。

旧制高校の学生たちは競って岩波文庫などを片っ端から読んでいったと聞いたことがあります。岩波文庫は1927(昭和2)年に創刊され、文庫の巻末に「読書子に寄す」という発刊の辞が掲載されています。いちど読んでみたらいかがでしょう。岩波文庫はドイツ語のレクラム文庫に倣ったことですが、廉価で手軽に読書ができるようになったという意味では「革命的」といってもいい変化をもたらしました。現在では皆さんの読書も文庫本とか新書が中心を占めているでしょうが、読書における大衆化現象とっていいのかもしれませんが。21世紀の現在、eブックなど電子書籍の登場で同じような未知の体験を私たちはしていると言えるのかもしれませんが。

私自身も高校時代には先輩の影響もあって文庫本の目録を手にとって濫読し始めたことを懐かしく思い出します。当時、文庫本の目録にしたがって読んだ最初の小説が二葉亭四迷『浮雲』、『平凡』だったように記憶しています。文庫本の目録にしたがって読み進めていきましたが、結局、大江健三郎の一連の小説のところで止まってしまいました。彼の作品の世界にハマってしまい、文庫本の目録からは離れて、せっせと大江の小説を読み続けました。緑色の箱入りの新潮社版『洪水はわが魂に及び』(1973年)二巻本を街の本屋さんで注文して購入したのが高校時代の最後の頃だったと思います。

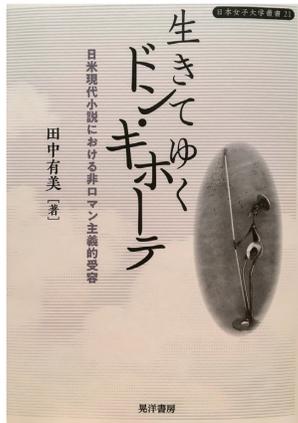
その後、大江はノーベル文学賞を受賞することになりますが、私自身は当時ただ何も考えずに読みふけていました。大江さんの故郷である愛媛県山奥の村は私の通っていた高校のあった大分市から近く、豊後水道を隔てて向こう側だったということをいま改めて思い返しています。

皆さん方にもそれぞれいろいろな読書体験があるかと思いますが、「読書の秋」に改めて新たな読書のあり方を考えてみてはいかがでしょうか。(図書館長・史学科教授)

田中有美 著

『生きてゆくドン・キホーテ—日米現代小説における非ロマン主義的受容』
(日本女子大学叢書21)

田中 有美



この本のカバーには、針金と金属ボルトのようなもので作ったドン・キホーテのオブジェが印刷されている。これは、友人がチリで見つけてわざわざ日本まで送ってくれたもので、それを9歳の息子が撮影したのだ。ドン・キホーテに見えてしまうことが不思議なほどシンプルなこのオブジェを見て、どんな印象をもつだろうか。なんとなく悲哀を感じるだろうか。逆に、ちょっと滑稽な印象を受けるだろうか。本書は、ドン・キホーテが喚起する滑稽さのほうに関心を寄せた日米6人の小説家たちの考察である。

17世紀初頭スペインで出版された『ドン・キホーテ』は、寝食を忘れて荒唐無稽な騎士道物語を読み耽る日々を送った結果、自分を伝説の騎士だと思いこみ、冒険の旅へと出発するドン・キホーテの物語である。従者サンチョ、やせ細った愛馬ロシナンテを伴い、思い姫ドゥルシネアの姿を胸に抱きながら、ドン・キホーテはラ・マンチャの乾いた大地を歩き続ける。風車を巨人だと言い張って突進していくエピソードはよく知られているだろう。約400年前にミゲル・デ・セルバンテスによって書かれたこの珍妙な主従の物語は小説の祖ともされ、出版直後から今日に至るまで、様々な国の作家に影響を与えてきた。この作品が生まれたスペインを含む欧州諸国の作家たちへの影響はとりわけ大きい。そのような欧州における受容を背景としつつ、本書では、自国の文学を成立させるにあたって欧州文学から影響を受けつつも、ある程度の距離を保ってきたアメリカと日本に焦点をあて、とくに、現代小説における『ドン・キホーテ』の受容例を分析して、欧州における受容との差異を明らかにすることを試みた。

欧州における『ドン・キホーテ』理解の歴史には大きな二つの流れがある。第一の流れは、騎士道物語のパロディである『ドン・キホーテ』は滑稽本であるという前提の上に立つものである。第二の流れは、十九世紀ドイツのロマン主義に端を発し、滑稽さや諷刺性は重要視せず、ドン・キホーテは、墮落した現実世界に負け戦を挑む悲劇の英雄であるという理解に基づくものである。スペインの思想家たちがこの「ロマン主義的解釈」に基づく著作を多数生み出したことから、欧州ではこの解釈が優勢となった。本書では、アメリカ文学と日本文学においては、ロマン主義的解釈とは異なる受容の系譜があることを明らかにした。アメリカ文学からは、ウィリアム・フォークナー、ウォーカー・パーシー、そして、ジョン・ケネディ・トゥールという三人の南部作家の作品を取り上げ、自己批判性や、悲劇性と喜劇性のバランスを重視した非ロマン主義的なキホーティズムの存在を示した。日本文学からは、矢作俊彦、高橋源一郎、そして、大江健三郎の作品について論じた。ここでも、ブルジョワの象徴としてのドン・キホーテや、小説というジャンルがもつ自意識との関わりで使用されるモチーフなど、ロマン主義解釈とは一線を画する受容の系譜が見えてきた。そして、何よりも興味深いのは、原作のドン・キホーテが自らの馬鹿げた行いを後悔して死んでいったのに対し、この6人に作家たちは、そのような結末を拒否し、前向きに生きていくドン・キホーテのモチーフに書き換えていることだ。

ロマン主義的解釈は、批評や映画やミュージカルなどの領域では今なお健在だ。しかし、日米現代小説の領域では、ロマン主義的解釈では見過ごされがちな『ドン・キホーテ』の喜劇的／風刺的な魅力が、換骨奪胎されつつ力強く受け継がれている。異なる言語、文化、場所に生きる読者だからこそ、忘れ去られたり、見逃されていたテキストの魅力を見つけ出すことができることもあるのだ。

(文化学科准教授)

図書紹介 高野晴代監修『広岡浅子「草詠」』

高野 晴代



広岡浅子の歌集
『草詠』の
翻刻・口語訳・解説

広岡浅子の歌集である『草詠』は、広岡家で浅子の持ち物などを残した茶箱の中からこのたび発見されたもので、本書によって始めて紹介するものである。表紙の写真を微細に確認すると、庭で椅子に座る浅子が持っている冊子だいせんの題簽には『草詠』の「冬」と記されていることがわかる。撮影時を特定することは難しいが、浅子は三十代と思われ、28歳で長女亀子を出産、38歳には筑豊の潤野炭鉱を買収するというような時期とも重なる。実業家として歩み始め、炭鉱にピストルを持参としたと伝えられる勇敢な浅子には、一生を通して自らの思いを託す和歌の存在があったことを、私たちはこの『草詠』を通して知ることになった。

本書は、手書きによる春夏秋冬恋雑6巻で構成されており、『古今集』から始まる勅撰集に倣っている。「広岡浅子の和歌の書きぶり」(日本文学科教授坂本清恵による「解説」)でも指摘があるように、桂園派の師匠からその詠法を学び、その歌風は、桂園派特有の『古今集』の影響を少なからず見ることができる。古今集歌人の紀貫之や凡河内躬恒の詠歌を、各歌の解説にも参考歌として挙げた。なかでも特徴的なのは、『古今集』において最多収載の女性歌人「伊勢」への憧憬とも言うべき詠歌方法である。伊勢詠を手本に鍛錬を重ねていったものと思われる。

浅子は『古今集』に代表される歌集ばかりでなく、『源氏物語』『枕草子』『紫式部日記』なども読み、それを踏まえた詠歌が散見する。たとえば、『枕草子』では、

あはれてふ秋もものかはこの夕べ鳴く鳴く帰る天つ雁がね(「帰雁」43番歌 春)

が挙げられるが、「初段」が秋の夕暮れの雁の連ねた様子を「をかし」と評しても、今日のこの春の帰雁をみれば比べものにならないと春秋優劣論の伝統をも詠み込んでいる。

浅子のかかなり早い時期の作と思われるものに次の詠がある。

文学ぶ窓の隙洩る小夜風に薫るもゆかし軒の梅が香(「梅、夜風に薫る」15番歌 春)

梅の香りに包まれながら、浅子は本を読んだという。座右に置いた『古今集』から伊勢の巧みさを学び、紫式部や清少納言の作り上げた古典作品を読み続け、それらを踏まえて重層的な自らの作品を作り上げる試みを、各歌から読み取ることができる。

このほど、後藤祥子氏による本書紹介(『成瀬記念館』(2019年7月)収載)が発刊された。是非お読みいただきたい。浅子の詠歌について多角的に評価を加え、たとえば「何よりも感動的なのはその歌境の完成度の高さ、静謐な雰囲気であろう」とし、例歌の一首として次歌を挙げられた。

山の端はそことも分かず消え果てて霞に落つる春の夜の月(「春月」21番歌 春)

後藤氏は「時節の移り変わりに沈潜し、山居に馴染む志向に気付かされる」と言及されるが、まさにそうした歌境を切り開いた一首である。『草詠』収載歌を調査してみると、当該歌の「山の端」「霞」「夜の月」の語句が頻出する。詠みたい歌材を繰り返し使い、納得できるまで詠もうとするところに、浅子のひたむきな努力を見ることができる。

さて、日本女子大学校設立に尽力した浅子は、明治41(1908)年、日本女子大学校の夏季三泉寮の結論会に参加する。「真善美」各部に喩えて詠歌するが、和英両文学部については次のように詠んでいる。

美しく人の心を導きて進むは文の力なりけり(「美 同和英両文学部」364番歌 雑)

明治二十年後半において、女性であっても、いつでも教育を受ける機会があるようにと、自らが援助して1901年設立にこぎ着けた日本女子大学校、その学生たちを前にして、「文の力」を養うべきと詠み、学ぶことの大切さを伝えている。浅子自身が、この学ぶ姿勢を生涯持ち続けたことを、『草詠』の歌々は示していると思われる。(日本文学科教授)

2019年1月発行 翰林書房 207頁 *目白, 西生田所蔵, 請求記号911.168-Hir

ウィリアム・モリスの散文ロマンスとケルムスコット・プレス刊本

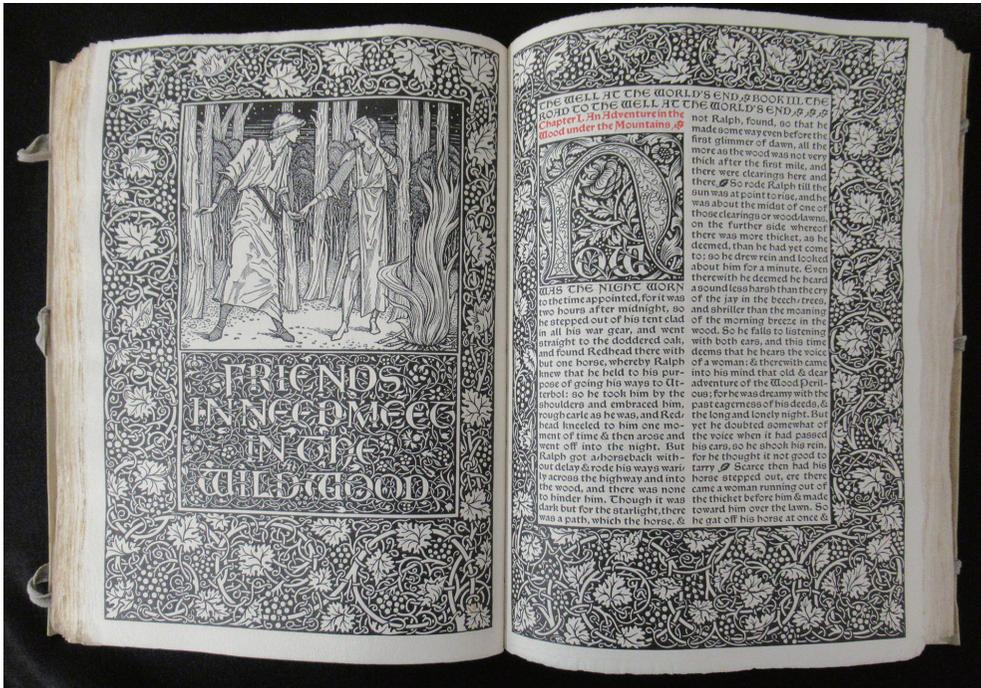
川端 康雄

ウィリアム・モリスの多岐にわたる活動のうち、私家版印刷工房ケルムスコット・プレスは彼の晩年の1891年1月に開設、モリス56歳のときで、1896年10月に62歳で没した後も秘書のシドニー・コッカレルが後を継いで1898年3月に最後の刊本『ケルムスコット・プレス設立趣意書』を出して工房を閉じるまで、併せて53点66巻の書物を刊行した。1895年に出版業界誌『ブックセリング』に掲載されたインタビュー記事のなかで、印刷工房設立の動機を問われたモリスは「自分が愛していて大切に思う本に、印刷の面でも紙の面でもその思いにふさわしい外見をもたせる試みがあったしかるべきだと思ったからです」と答えている。彼の愛読書のなかでも別格といえる英国14世紀の詩人ジェフリー・チョーサーの作品集がこの印刷工房の最高傑作であることはすでに本紙に拙稿を寄せたので繰り返さないが、中世文学、ロマン派の詩作品など、モリスの愛読書が確かに書目の中心になっていることがリストを見ると確認できる。そして「自分が愛していて大切に思う本」にモリス自身の作品がふくまれており、モリスの翻訳書も入れると、併せて18点23巻ともっとも多い。そこで本稿ではこれらのモリス作品を概観したうえで、自身の印刷工房からの刊行を念頭に置いて創作した彼の「後期散文ロマンス」を見ていきたい。

ケルムスコット・プレス（以下、適宜 KP と略記）のためにモリスは、ゴールデン・タイプ、トロイ・タイプ、チョーサー・タイプの3種の活字体をデザインした。このうちゴールデン・タイプが最初のデザインで、ヴェネツィア15世紀の印刷者ニコラ・ジャンソンの活字をモデルにしたローマン体で、その名前は15世紀のキャクストン版の聖人伝説集成の書物『黄金伝説』にちなむ。これはモリスは最初のケルムスコット本とするつもりだったが大型4折本のための用紙の供給が間に合わなかったために、それより小ぶりの本を出すことからはじめた。それで出された記念すべき最初の刊本がモリス自著の『輝く平原の物語』だった。

現在ではデザイナーとしてもっとも知られるモリスだが、同時代には詩人として名高かった。とくに韻文物語集『地上の楽園』（1868-70年）が中流階級層を中心に多くの読者を得ており、桂冠詩人のテニスンが1892年に没した直後に、その後任を打診されたこともある（これは断った）。つまりヴィクトリア時代の代表的な詩人という評価を得ていたのだが、1880年代後半あたりから文学創作は形式上は散文物語にシフトするようになる。その第一作が1886年刊行の『ジョン・ボールの夢』で、これは当時モリスが積極的に関わっていた社会主義同盟の機関紙『コモンウィール』に連載したのが初出で、14世紀のイギリスの農民反乱（ワット・タイラーの乱）を素材とした夢物語だった。1888年に短篇「ある王の教訓」と併せて単行本として出された（KPでは6番目の書目として1892年に刊行）。おなじく『コモンウィール』に1890年に連載したのが『ユートピアだより』である（KPの12番目の書目として1893年に刊行）。なお、この二作のあいだに『ウルフィング族の家の物語』（1888年）と『山々の根』（1889年）を発表している。それらは古代ゲルマン人の共同体を描いており、とくに前者は『指輪物語』の作者トールキンが愛読した物語であることが知られている。いずれもチジック・プレスというモリスが比較的高い評価を与えていた印刷所を用いて、当時の商業出版の制約のなかである程度満足できる質の本ができたために、KPで印刷されることはなかった。

『輝く平原の物語』以後のモリスの主要な散文物語を以下に挙げると、『世界のかなたの森』、『世界のはての泉』、『みずうみの不思議な鳥々』、『サンダリング・フラッド』があり、いずれもKPで印刷されている。これらの物語群の共通の特徴として、近代以降に主要な文学形式となっていた小説とは異質の、むしろアーサー王物語などの中世文学の「ロマンス」と呼ばれるジャンルに相当する。『輝く平原の物語』では主人公ホルブライズが、誘拐された許嫁を探し求めて「逃避者」たちの住む「輝く平原」への冒険の旅をする。これがKPの第一刊本であることは先ほど記したが、この物語はウォルター・クレインの挿絵を加えてKPの22番目の刊本として再刊された（第一刊本では挿絵はなかった）。『世界のかなたの森』（1894年）では青年ゴールデン・ウォルターが未知の世



ウィリアム・モリス『世界のはての泉』（ケルムスコット・プレス、1896年）第3部冒頭の見開き2頁。木口木版挿絵「危急の折の友との邂逅」バーン＝ジョーンズ画（所蔵：日本女子大学図書館）

界を求めて故郷を後にし、魔法の森のなかに入り込む愛と冒険の物語。『世界のはての泉』（1896年）では王子ラルフがその伴侶となるアーシュラとともに長命の泉を探し求めて成就し故国に帰還する。『みずうみの不思議な島々』（1897年）の主人公はバーダロンという少女で、幼児期に魔女に誘拐され奴婢として育てられた彼女が自由を求めて小舟で逃走し、みずうみをめぐる冒険譚。そして最後の『サンダリング・フラッド』（1898年）はモリスの絶筆となった作品で、大河サンダリング・フラッド（「引き裂く川」の意）の橋の架からぬ上流の兩岸に住む青年と乙女が織りなす恋と冒険の物語。これらはいずれもチョーサーやトマス・マロリーの中期英語を思わせる独特な擬古文で書かれていて、モリスが生きた産業革命以後の近代社会から限りなく遠い、深い森と清澄な川やみずうみのある世界が舞台背景となっている。さきほどトルキンの名を出したが、「ナルニア国ものがたり」の作者として知られるC・S・ルイスもこれらのモリス・ロマンスの愛読者であったことが知られている。じっさい、20世紀にイギリスで興隆するファンタジー文学の先駆的作品をモリスが作り出したと見ることが可能であり、これはデザイナーとしての彼の仕事のアーツ・アンド・クラフツ運動をへて20世紀のモダン・デザインに与えたインパクトに相当する。

モリスの散文ロマンス群中最高傑作と目されるのが『世界のはての泉』である。ルイスはこの物語をもっとも愛読し、これに出会った際の感動を自伝『喜びのおとずれ』に記している。これはK Pの39冊目の書目として1896年に刊行された。大型4折判504ページ。活字はチョーサー・タイプを使用し、二色刷、二欄組、軟ヴェラム装、絹紐付き、発行部数は紙刷本が350部（価格は5ギニー）、ヴェラム刷本が8部（20ギニー）、奥付日付は1896年3月2日、K Pより同年6月4日に発売された。『チョーサー作品集』ほかK P刊本でもっとも多く挿絵を供給した盟友バーン＝ジョーンズが木口木版挿絵を4点供給している。モリスの物語のみならず、活字体、縁飾り、装飾頭文字とじつによくマッチしており、二人のアーティストの相性の良さを示している。なお、本作品の邦訳は晶文社版の「ウィリアム・モリス・コレクション」に収録されている（『世界のはての泉』上下巻、川端康雄・兼松誠一訳、2000年）。原書の擬古文の味わいはなかなか訳文に移しえていないが、ファンタジー文学を愛好する方であれば楽しんでいただけると思う。（英文学科教授）

著作紹介 臼杵陽著 『「中東」の世界史：西洋の衝撃から紛争・テロの時代まで』

臼杵 陽

トランプ米大統領がイランに対して制裁を課し、イランは石油輸出ができなくなり苦境に追い込まれている。同時にペルシア湾をはさんでイスラーム・スンナ派のサウジアラビアとシーア派のイランが対立している。イランがアラブ諸国の中のシーア派の政権を支援し、サウジアラビアがスンナ派の反体制派の後ろ盾になって、アラブ世界ではイスラームの宗派間の対立が激しくなっている。多くの難民を生み出したシリア内戦がその典型であろう。

中東は民族間あるいは宗教・宗派間の紛争ばかりである。なぜこんな頻繁に紛争が起こるのか。『「中東」の世界史』はこんな疑問から出発して、執筆された。その疑問への解答の一つを示せば、ヨーロッパ諸列強によって旧オスマン帝国領に国境線が恣意的に引かれ、とりわけ第一次世界大戦後にシリア、レバノン、イラク、パレスチナなど人為的な国家が多数誕生したからである。

「中東」地域の紛争の起源は19世紀にある。ヨーロッパ諸列強が当時の「瀕死の病人」オスマン帝国に介入して、その領土をどんどんと奪っていったからである。世界史の教科書などでは「東方問題」と呼ばれている。現在の中東地域の紛争の焦点はオスマン帝国領だった地域がほとんどである。したがって、本書は「西洋の衝撃」の始まる18世紀末からその歴史記述が始まる。

しかし、その前に説明しておかなければならないことがある。本書のタイトルにある鍵括弧付きの「中東」という用語である。「東の真ん中」ってどこ？と誰でも疑問に思うだろう。地政学的な命名なのである。英語でもミドル・イーストとなる。そんなときに思い出してほしいのが日本の位置する「極東」である。最近ではほとんど聞かなくなったが、私の子供のころ九州の瀬戸内海側に住んでいたので、山口県岩国基地から流れてくる米軍のFEN（ファー・イースタン・ネットワーク）というラジオ放送をよく聞いていた。このファー・イーストの日本語こそが「極東」である。日本は「東の端っこ」というわけである。アメリカから見れば日本は西であるはずである。しかし、日付変更線が太平洋上にあるため、ヨーロッパ経由で日本を見てしまう。世界の中心はロンドンであり、東経・西経の経度0度のグリニッジ天文台があるためなのだ。

ここまで書けば「中東」は大英帝国の帝都ロンドンからの目線であることがわかるだろう。イギリスにとって「中東」はスエズ運河を抱えて「インドへの道」にある通過点として戦略的に重要であったのである。したがって、「インドへの道」に沿ったルートはイギリス領になっていく。また、地中海の南側に位置する北アフリカもアラブ世界であるが、この地域は北側のフランス、イタリア、スペイン、あるいはイギリスの植民地になっていった。

実は「中東」の範囲は、第一次世界大戦、第二次世界大戦、ソ連崩壊による米ソ冷戦の終焉といったような歴史的な大事件によって変わっていった。だからこそ、これまで「中東」の近現代史を一冊の本でまとめるのがむずかしかった。日本だけではなく、中東地域や欧米でも同じような状況だった。米ソ冷戦終焉後に初めてこのような試みが行われるようになったのである。

同時に、「中東」の近現代史をどこか遠い世界の出来事だと思いがちの人がいまだに多い。本書では同時代の日本と「中東」の関係もできるだけ盛り込む努力をしている。というのも、「中東」といえば、砂漠とか、石油とか、果ては「アラビアン・ナイト」といった画一化されたイメージを持つ人が圧倒的に多いからである。「中東」の歴史自体に関心に向けることが極端に少ないということを、講義や講演などを通じて「中東」について長い間話し続けてきて痛切に感じてきたからである。どうしたら日本人に「中東」を身近に感じてもらえるかが大きな課題だった。

そんなことを考えながら書いたので、できるだけ読みやすくしようと努力した。しかし、本書を手取る側に関心がなければ、棚に置かれたままで終わってしまうのも事実である。本書が「中東」の近現代史を知るための入口の一つになってくれればいいなと考えるこの頃である。

(史学科教授)

JWU ラーニング・コモンズ名称決定！

2019年4月にオープンした図書館（目白）2階と2021年に新教室・研究室棟地下1階に開設予定のJWU ラーニング・コモンズについて、本学学生・教職員を対象に名称募集を行い、次のとおり決定いたしました。

図書館（目白）2階 JWU ラーニング・コモンズさくら

新教室・研究室棟地下1階 JWU ラーニング・コモンズかえで

名称募集（期間：4月18日～5月7日）には65票、その中から選定された6候補への投票（期間：5月17日～29日正午）には212票というたくさんの票をいただきました。さらに10月から11月にかけて2つの場所に共通のロゴを募集します。西生田図書館2階「泉ラーニング・スペース（西生田）」も含め、皆さんに親しまれ、活用される学びの場になることを目指します。

（館員・学修支援部会事務局 中澤恵子）

2018（平成30）年度上代タノ平和文庫購入資料紹介

昨年度中に「上代タノ平和文庫」の蔵書として購入された図書の一覧（受入順）をお知らせする。「上代平和文庫」は、旧図書館が開館した当時第6代学長であった上代タノ先生が寄贈された846冊を基に創設され、ご遺志を継いで現在も継続収集が続けられている。新しくなった図書館では最上階である4階に配置し、先生の肖像、記念プレートも旧図書館より移設した。移転後も一部を除いて貸出ができることはかわらない。多くの方々が4階を訪れて、この文庫に親しんでいただくことを願っている。

請求記号	資料情報	請求記号	資料情報
1 519.2199 Oki	沖縄の環境・平和・自治・人権 / 日本環境会議沖縄大会実行委員会編。-- 七つ森書館, 2017.	17 121.6 Nis	西晋一郎の思想：広島から「平和・和解」を問う / 衛藤吉則著。-- 広島大学出版会, 2018.
2 329.5 Hat	告白：あるPKO隊員の死・23年目の真実 / 旗手啓介著。-- 講談社, 2018.	18 329.36 Shi	紛争地の看護師 / 白川優子著。-- 小学館, 2018.
3 319.8 Ebi	戦争文化と愛国心：非戦を考える / 海老坂武 [著]。-- みすず書房, 2018.	19 319.8 Kok	高校生平和大使にノーベル賞を：平和賞にノミネートされた理由 / 「高校生平和大使にノーベル賞を」刊行委員会編。-- 長崎新聞社, 2018.
4 319.9 Fuk	原爆の記憶を継承する実践：長崎の被爆遺構保存と平和活動の社会的考察 / 深谷直弘著。-- 新曜社, 2018.	20 319.8 Hei	平和をめぐる14の論点：平和研究が問い続けること / 日本平和学会編。-- 法律文化社, 2018.
5 319.8 Kok	国際平和協力入門：国際社会への貢献と日本の課題 / 上杉勇司, 藤重博美編著。-- ミネルヴァ書房, 2018.	21 319.2 Hig	東アジアの平和と和解：キリスト教・NGO・市民社会の役割 / 山本俊正編著；関西学院大学キリスト教と文化研究センター編；李鍾元 [ほか]著。-- 関西学院大学出版会, 2017.
6 O.S. 210.76 Bor 1	戦後日本の復興の記録：GHQカメラマンボリアが撮った日本の風景 / デミトリー・ボリア写真撮影；杉田米行編著；上巻。-- 大学教育出版, 2018.	22 323.142 Kyu	9条の挑戦：非軍事中立戦略のリアリズム / 伊藤真, 神原元, 布施祐仁著。-- 大月書店, 2018.
7 O.S. 210.76 Bor 2	戦後日本の復興の記録：GHQカメラマンボリアが撮った日本の風景 / デミトリー・ボリア写真撮影；杉田米行編著；下巻。-- 大学教育出版, 2018.	23 302.273 Mur	The last girl : イスラム国に囚われ、闘い続ける女性の物語 / ナディア・ムラド, ジェナ・クラジェスキ著；吉井智津訳。-- 東洋館出版社, 2018. -- (Toyokan books).
8 319.9 Has	国連平和構築：紛争のない世界を築くために何が必要か / 長谷川祐弘著。-- 日本評論社, 2018.	24 329.39 Hor	人道支援は誰のためか：スーダン・ダルフルの国内避難民社会に見る人道支援政策と実践の交差 / 堀江正伸著。-- 晃洋書房, 2018.
9 319.8 Tat	戦うことに意味はあるのか：倫理学的横断への試み / 持田隆, 横地広編。-- 弘前大学出版会, 2017.	25 210.75 Ari	原爆：私たちは何も知らなかった / 有馬哲夫著。-- 新潮社, 2018. -- (新潮新書; 782).
10 323.142 Shi	9条誕生：平和国家はこうして生まれた / 塩田純著。-- 岩波書店, 2018.	26 210.6 Yam	暴走の本質 / 山田朗著。-- 新日本出版社, 2018. -- (日本の戦争; 2).
11 193.04 Mur	戦争と聖書の平和：キリスト者からの問いかけ / 村田充八著。-- 晃洋書房, 2018. -- (阪南大学叢書; 110).	27 368.4 Yag	娼婦たちは見た：イラク、ネパール、中国、韓国 / 八木澤高明 [著]。-- KADOKAWA, 2019. -- (角川新書; [K-246]).
12 367.253 Kur	アメリカのフェミニズム運動史：女性参政権から平等憲法修正条項へ / 栗原涼子著。-- 彩流社, 2018.	28 369.37 Tow	ナガサキの郵便配達 / ビーター・タウンセント原作；中里重恭訳。-- スーパーエディション, 2018.
13 319.8 Oki	沖縄平和論のアジェンダ：怒りを力にする視座と方法 / 星野英一 [ほか]著。-- 法律文化社, 2018.	29 369.38 Sug	国際的難民保護と負担分担：新たな難民政策の可能性を求めて / 杉木明子著。-- 法律文化社, 2018.
14 217.606 Ish	原爆：広島を復興させた人びと / 石井光太著。-- 集英社, 2018.	30 316.853 Dub	平和のための闘い / W・E・B・デュボイス著；本田量久訳。-- ハーベスト社, 2018.
15 319.8 Nem	ヒロシマ・パラドクス：戦後日本の反核と人道意識 / 根本雅也著。-- 勉誠出版, 2018.	31 319.8 Aji	アジアの平和と核：国際関係の中核開発とガバナンス / 広島市立大学広島平和研究所編。-- 共同通信社, 2019.
16 369.37 Hor	原爆供養塔：忘れられた遺骨の70年 / 堀川恵子著。-- 文藝春秋, 2018. -- (文春文庫; [ほ-24-1]).		

令和元年度夏期スクーリング開館について

新元号「令和」が施行され、新しい図書館で迎える初めてのスクーリング開館は、8月5日(月)～28日(水)の4週間で昨年同様に21日間、開館時間は<月～金>8:45～20:00、<土>8:45～18:00であった。

大変暑かった8月だが、昨年と違い台風等の影響もなく、ゆっくりと新しい図書館をご利用いただけたと思う。館内図を見ながら熱心に資料を探す受講生、入口階の「JWUラーニング・コモンズさくら」で、話し合いながら学修する受講生の姿が見られた。OPAC検索方法等の質問が寄せられただけでなく、「JWUラーニング・コモンズさくら」のラーニング・サポーターへの学修相談や、JASMINE端末の利用等、積極的に施設を利用する受講生の姿も見られた。

夏期スクーリング開館の利用状況

年度	R1	H30	H29
開館日数	21	21	24
入館者数	2,938	3,069	3,913
1日平均	139.9	146.2	163.1
最高	187	276	247
最低	107	92	120
受講者数	717	707	708
登録者数	71	76	86
1日平均	3.4	3.7	3.6
更新者数	133	135	139
来館率	28.5	29.9	31.8
貸出冊数	599	784	1,005
1人当たり			
1日平均	28.6	37.4	41.9
最高	63	71	78
最低	10	11	15
貸出日数	21	21	24
複写枚数	6,239	4,452	7,056
1日平均	297.1	212	294
一般学生・教職員 その他の貸出	951	1,098	1,177
1日平均	45.3	52.3	49.1

今年の利用状況は左表の通り。入館者数・貸出冊数とも減少傾向である。図書館が泉山地区から移転したことに伴い、授業前や休憩時間の利用が減少した影響と考えられる。参考係利用者数は増加傾向である。夏期スクーリング期間に通常期と同様にMyJWULISへログインし、利用状況の確認、貸出更新、貸出中図書予約、目白・西生田図書館所蔵図書取り寄せ等ができるサービスも積極的にご利用いただいている。

当日の開館時間、ラーニング・サポーターの滞在時間や施設の予約状況はTwitterでもお知らせしている。通常期には資料の探し方講習会を随時受け付けているので、新しい図書館での学修に是非お役立ていただきたい。

(館員・閲覧係 南木香織)

参考係利用状況(質問処理件数)

年度(日数)	R1(21)	H30(21)	H29(24)
一般学生・教職員	24	27	27
スクーリング生・その他	40	21	11
合計	64	48	38
1日平均	3.1	2.3	1.6

図書館・学生滞在スペース落成式催行される

6月22日(土)14時より、図書館とその前に建つ学生滞在スペースの落成式が成瀬記念講堂にて催行されました。当日は断続的に激しい雨が降るあいにくのお天気でしたが、多くの参列者にご参加いただきました。大場学長の挨拶、山田事務局長からの経過報告、お茶の水女子大学附属図書館長加藤美砂子氏、泉会副会長田中法生氏によるご祝辞、本学卒業生で、設計者である妹島和世氏による建物コンセプト説明に引き続き、宮崎学生生活部長より学内で公募されていた学生滞在スペースとラーニング・コモンズの名称の発表、高野文学部長の記念講演「新図書館のラーニング・コモンズについて—JWUラーニング・コモンズの新たな姿—」が行われました。

校歌斉唱、閉式の後、図書館の見学が行われ、多くの方々が新しい図書館を見学されました。



編集後記 目白キャンパスの旧図書館の取り壊しが進み、夏の間にはほぼ更地となった。物寂しい気持ちもあるが、間もなく新しい教室・研究室棟が立ち上がり、図書館の「JWUラーニング・コモンズさくら」と対となる「かえで」も完成することになる。囲いの向こうに新たな建物が見えてくるのも遠いことではない。(浜口)